

真宗大谷派
高徳寺通信

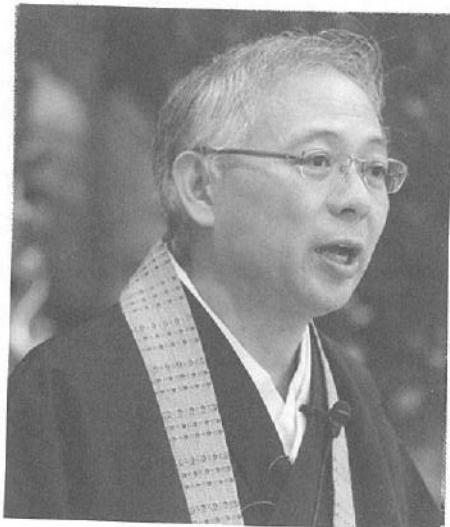


ほう おん こう
報恩講法話

かい ほう りゆう
海 法龍 先生

(横須賀・長願寺 住職)

『南無阿弥陀佛に生きる』
～親鸞聖人の御意～



二〇一五年十月二十四日

高徳寺 本堂にて



こちくらの住職の長男さんが得度をされた時に

来させていたいたことでございました。こちくらの住職とはもう：私が少し上なんですけれども、随分長く友人関係ですね、お付き合いをさせていたたいております。前ご住職なうびに、前坊守様にも随分前から、いろいろな形でお世話をいただ

いたまして、非常に有り難く思ってることでござります。今日は一年に一度、一番大事な行事、親鸞聖人の報恩講ごうごとありますので、こ案内がありますので、皆様はどういう行事かは心得てのことだと思います。私たちのお寺は淨土真宗のお寺でありますので、やっぱり親鸞聖人なんですね。ですから、こちくらのご本尊様のですね、向かって右側に親鸞聖人の掛け軸がある訳ですね。そこに厨子がありまして、その中にご安置してある訳です。私たちの仏教は淨土真宗でありますが、そのお心を伝えてくださった方といふですかね。伝えたということは同時に、そこに出遇いを持たれたということですね。淨土真宗ごうは南無阿弥陀佛の仏教ですね。南無阿弥陀佛の教えに出遇って、そして南無阿弥陀佛の教えに生き、南無阿弥陀佛の教えを伝えてくださいました。10年前にですね、何回かこの高徳寺様の報恩講にお伺いしたことがありましてですね、が、海と申します。今日はどうぞ宜しくお願ひいたします。10年前にですね、何回かこの高徳寺

今は10年ぶりということがありますね。ちょうど

方ですね。90年の生涯であった訳です。その親鸞聖人のお心にですね、もう一度尋ね直していく。親鸞聖人のご法事であります報恩講という事を通して、どういう生き方をされたのか、どういう教えで、あなたの心、ということですね。毎年一度、こういうご法要を通して確かめ合って来た、というの、がこの報恩講という、ことの意味であります。それはどういうことかといふと、高徳寺様のお寺の原点はどこにあるのかといえば、親鸞聖人。皆様もこうしてご門徒としてのご關係でありますから、それそれがですね。皆様の中において、親鸞聖人の方は、どういう方なのかと、うることを、確かめていただいて、自分たちが生きる歩みの中で、親鸞聖人のお心から学んで、いたぐくと、ことが大事だといふ風に思うことです。ですので、その親鸞聖人のお心は、はどういうお心だったのか、ということをお互いに、確かめ合っていけば良いと思います。ですから今日のお題は、『親鸞聖人の御意』……サブタイトルですけれど、……これで「ぎよい」と読みます。蓮如上人が書かれたお文様の中にですね、『聖人の御意』とう言葉があるんですね。聖人の御意と言います。二緒にどうぞ。「しようなんのぎよ」(全員)……聖人のおじといふことですね。親鸞聖人のおじは何だ

したのかといふことを尋ねるのが報恩講ですよ。そういふことが、お文様の中に示されていふことです。
『南無阿弥陀佛に生きる』とさせていたときました。親鸞聖人が南無阿弥陀佛の教えに出遇われて生きられたといふことですよ。そういふことを確めていなければなんと申うことがあります。仏教とうのはですね、もともとどういうところから生まれて来たのかと、どういふことですね。仏教の原点を尋ねていけば、それはどこから生まれて来たかと言つと、人と人とのうは、そういふところから生まれて來たんです。つまり人間の關係性の中から生まれて來たと言つて良いでしよう。もう少し言つならば、私たちは一人で生きてゐる訳ではないですね。必ずそこに生まれた時には父親がいて、母親がいて、親屬がいて兄弟がいて、地域があそ、日本の國民として世界の一員として、すこにもう、關係が与えられてゐる訳ですね。だから私たちは、人として生きるということはいつもそこに「他者」がいるということですね。他者がいる。他者がいてはじめて自分がいる。そうですね。他者がいなければ、人間といひ訳です。だから人とのものは決して一人で生きているのではなくて、必ず「私」と「他者」ということがあって生きている訳

ですね。ですから人間の問題というのも、皆、他者があつて私があつて人間の問題がある訳ですね。私があつて私の問題があるのではないか、必ず他者がいて人間の問題があるんですね。だから自分のこの人生をどう生きるかという時にですね、自分だけで生きる訳じゃないですね。必ず他者の中を生きる人生なんですね。だから自分の問題だけどそこには必ず他者がいて、やはりがって、関係性があると。その中から生まれて来たのが仏教。どういうことかと言うとですね、我々はこう、人間関係を持ってくるけれども他者の中を生きているんですけど、他者の関係が良い悪いかかることがありますね。つまり、この関係が途切れてしまうと、人間の世界は無くなるんですね。消えていく訳です。つながりがあるから初めて人間として人間の世界がある訳ですね。その人間の世界の中ですね、つながりが消えていってしまう。つまり、他者がいなくなってしまう。他者の存在が私の中には無くなってしまう。そういう出来事の中で生まれたのが仏教なんですね。他者ですから、例えば私のことで言えば、私と妻がいますから、私の妻の存在が無くなる。私の中に子供たちの存在が無くなってしまう。私の中で地獄の人達のことが無くなってしまう。だから人間の問題といつも孕みながらですね、実は生活をしてると言つていひんで

おかげさん

くなつてしまふ。私の中で他の國の人達のことが無くなつてしまふ。それはもう関係が切れていますよね。そういう風に、事柄ですね。関係が切れいくと私たちはもう、孤立していくんですね。私という存在が、他者と関係が切れいくと孤立してしまう。日本という國も他の國との関係が無くなつてしまふと孤立しますし、今まで言つねば、私達の中にですね、沖縄の人達のことがどれだけあるかついとうんとですね。沖縄の人達のことが、まあ基地の問題もそうですが、ああいう問題が私達の中から薄れてしまつている。無くなつてしまふ。そういうことでもあるんじゃないかなと、うふうふ思ひます。関係が切れてくる。をすると、自分の思いだけの世界にならんんですね。人間は、私の思いに合う人々合わない人々のところで相手の存在が決まつてきますから。私の気持ちに合めない人は消えていくんですね。いや、消してしまいます。私の気持ちに合う人は受け入れていくっていうふうで、しようかね。そういう私達の姿がある訳ですね。ですから、いつでも私達は他者との関係の中で、お互いをお互いの問題ですが、そこに争うとか、あるいは傷つけ合つとか、そういう問題をいつも孕みながらですね、実は生活をしてると言つていひんで



しょうかね。そうこう中にあって、仏教の教えが生まれて来るんですね。なぜ人は傷つけ合つんだろう。なぜ人は憎み合つんだろうと。お互に人間として生きながら、関係を持ちながら、他者とともにありますから、なぜそなつていくんだろう? ということですね。だから、どうやら、自分も救われていかなければならなければ、けど、他者も救われていかなければならぬ。そういうふうなところから、どうぞ、自分も利すうれでいくべきだよ。だってそうですね。氣持ちが通じ合つと、うしご、本当に大事なことなんだと。だってそうですね。氣持ちが通じ合つと、笑顔になるから。私もこうやっていろいろな所に行っているんです。いろいろな所に行ってお話しをさせていただくんです。今日は10年ぶりなんです。高徳寺さんは、10年前にお会いした人はほとんどいませんよ。お会いなくて、お会いしてるのは実はいらっしゃるんですけど、私はもう名前も忘れてるけども、だけど顔は分かってる訳です。それが何があるかと、つまり10年経つてる間に見てね、あつと思われる時は、ニコッときられるんですね。そつするとね、顔が分かっちゃるとね、久しぶりに見えてね、あつと思われる時は、ニコッときられるんですね。そこには何があるかと、どうと、つまり10年経つてるけど、私の存在がその人の中にあるってことですよ。暫く期間があつて忘れてたかもしれないけど、顔を見たう私の存在が、その人の中に蘇ってきました訳ですね。で、ニコッときれたんですね。私も見たことがあるので、ニコッときましたよ。時々ね、見なことは人にニコッときれるよね。こっちもニコッときません。で、ニコッときました。私も見たことがないといけませんので、ニコッときますが……。ニコッときます。

だけの世界になってしまつ。ところとせうすね。人間の私達は課題として持つてるんですね。課題だよってことをですね。私達にあらためて示してくださっていると言つていでしようかね。だから、こうやって人間と人間の関係であれば、人と人とは気持ちが通じ合つと、うしご、本当に大事なことなんだと。だってそうですね。氣持ちが通じ合つと、笑顔になるから。私もこうやっていろいろな所に行っているんです。いろいろな所に行つてお話しをさせていただくんです。今日は10年ぶりなんです。高徳寺さんは、10年前にお会いした人はほとんどいませんよ。お会いなくて、お会いしてるのは実はいらっしゃるんですけど、私はもう名前も忘れてるけども、だけど顔は分かってる訳です。それが何があるかと、どうと、つまり10年経つてる間に見てね、あつと思われる時は、ニコッときられるんですね。そつするとね、顔が分かっちゃるとね、久しぶりに見えてね、あつと思われる時は、ニコッときられるんですね。そこには何があるかと、どうと、つまり10年経つてるけど、私の存在がその人の中にあるってことですよ。暫く期間があつて忘れてたかもしれないけど、顔を見たう私の存在が、その人の中に蘇ってきました訳ですね。で、ニコッときれたんですね。私も見たことがあるので、ニコッときましたよ。時々ね、見なことは人にニコッときれるよね。こっちもニコッときません。で、ニコッときました。私も見たことがないといけませんので、ニコッときますが……。ニコッときます。

るんですよ。つまり相手の存在が私の中にある時は、親しみを感じるんですね。親しみを感じるとねエ、人間どうなるかというと、笑顔になりますね。だからやぱり私達は笑顔で生きるのが一番イイ訳ですよ。ね、笑顔がイイなアと皆さん思うでしょ？ お家に帰って「ただ、ま」って言った時、笑顔が無いと…どうですかね？ 皆さんのお家には笑顔がありますかね。この頃そつうコマニャルがありますね。「会社は冷たけど、二トリの毛布は暖かい」とやつ。(笑) ビール買ひに行つたら、懐は寒いけど、二トリの毛布は暖かい。(笑) それから「ただ、ま」って帰つてみると、奥さんと子供さんがゲーム熱中してる訳ですね。だから「ただいま」と言とも振り向いてくれば、訳ですよ。そこでね、家族は冷たけど、二トリの毛布は暖かい。(大笑) まああんまり笑えなかもしれませんよね。でもね、人間っていうのはね、そういうところですね、生きる力になるんですよ。何氣ないことかもしければ、けど。笑顔がないことは、自分の存在が相手の中に無くなることですね。そうすると、私の存在が相手から尊重されてないといふのですね。尊重されてないってことは、もうそこに自分の居場所が無いといふことですから。我々はつながりの中で生きてますから。そういう居場所がないところでは生きられないですね。家の中に居場所が無くなつたら生きられないし、会社の中に居場所が無くなつたら生きられないし、学校の中に居

場所が無くなつたら生きられない訳です。私達は、どういうつながりを持っているのか？ 相手に対する立場、どうしてこうに立つて向き合っているのか？ これは、ものすごく大事な問題で普遍的な問題ですね。それがね、つながりの中で本当に大事なことをしてある訳ですね。私も家に帰つて「ただいま」と家族に「お帰りなさい」とか言つてますけど、極力ですね、笑顔にするんですね。けどねエ、やはり…なんかあった時はねエ、笑顔にならなーですね。なんだか…と困つたらねエ、笑顔にならなーですねエ。夫婦でも。でもね、相手の存在がね、なんだか！ と気持ちがそぐわないと感じある訳ですね。ちよと悲しいですね。存在が自分の中にあるらぬ、なんとかしていきたいなアと思う訳ですよ。なんとかしていきたいなアって。相手との間をね。そこには、なんとかしていきたいなア、なんとかならないかなアって、いうものがいる訳ですね。ちよと悲しいですね。つながりが、そういふことになつてるのは、気持ちと気持ちが通じないって、いうのは非難しますよ。だから、なんとかならないかなアって思つうんです。私の中に相手の存在があればね。でもうちよといふとね、この人嫌いだなアと…どんな人が…って思つたらね…なかなか難しいですよ。だけども、まだその人がね、私の中にあればね、

や。ぱり嫌だなーと思つてもね、なんとかして、きたいなアと思つ
う訳ですよ。もう少し言ひえば、あーあ、ここの風になつちゃた
けど、ああ、自分も何か悪かったところが、もしかしたらある
たまなア……という風に自分をね、見ていくような世界も
ある訳ですね。嫌と思つてもね。そこにはやっぱりね、痛み
がありますね。だから私たちのつながりといつのは、そつや
て相手との関係が良くても悪くとも、そこには喜びと悲
しみがあって、そしてちょっと痛みがある。国と国の関係性も
そうですよね。民族と民族の関係もそうだね。ね。

なんとかしていきたい。相手の存在が自分の中にあり、自
分の存在が相手の中にある、なんとかしていきたいといつ
氣が起る。だけど、もう相手の存在が私の中に無い。
私の中に相手の存在が無かつたり、喜びも悲しみも痛
みも無いですね。どうなってもイイ訳です。誰がどうな
どもイイ訳で、死んでも、苦しくても、悲しくても、どう
なつてもイイと。そういうことがねエ、孤立ですよね。また
私達は他者との間の中でですね、実は今言ったような問
題を抱えながら、生きているんだといつことなんです。本
当に人間のつながりとして大切なことは何なのか? その中で
その関係性を失う、他者がいなくなるということはいた
どう、うことなのかな? そういうことを通してあらためて、私
達に仏さまの教えといつもの大きさが言われて来るん
ですね。その時何を言ってるのかといつと、親鸞聖人の
南無阿弥陀仏といつのは、そういう人間の関係性の中で

何が大切なことなのか、といつことをおしゃる訳です。
それは親鸞聖人がおしゃるといつよりも、親鸞
聖人が出遇った仏教、教えに、そういう元がある訳
ですね。何が大切なことなのかってことを、言葉を交
えれば何が本当なのかと。何が私達の関係性に
おいて本当なのか? 本当のつながりって言つんでし
ょうかね。本当の関係性って言つんでしようつむね。ま
あそつ、うことですね。示してくれただって、るべしやう
ね。ですから、言葉にすれば、"眞実"といつことですね。
この真実といつことを私達に伝えるために、実は、
"南無阿弥陀佛"といつ言葉が生まれて来まし
た。そういうことをが書かれてるお経があります。
そのお経が『大無量寿經』です。ご一緒に言
てみましょつ。『だいありよつじゅきよつ』仏説
無量寿經とも言えますが、大無量寿經で
いうお経があるんですね。そのお経の中に、南無
阿弥陀佛の意味が記されてるんです。実は
南無阿弥陀佛の意味を記したお経といつ
のは、これしかなんないです。南無阿弥陀佛は大切
です。で、うお経は沢山あります。でもなぜ
大切なのかってことを説いてるお経はこれだけ
なんですね。そこに南無阿弥陀佛といつこと
ですね、意味と言いましたが、昔の人は何と言つた
かと云ふと、「おられ」と言いました。「おられ」

南無阿弥陀佛のお心が示された世界。そのことをお詰められと言ったんですね。だから、こうやってお話を聞くことを「お詰められを聞く」と言いました。これは真宗だけの用語ですね。淨土真宗の方々が培ってきた言葉で、もう今は消えていてしまって「お詰め」の言葉です。一緒に言ってみましょう。「お詰めを聞く」お経の言葉の心を聞く。南無阿弥陀佛の言葉のお心を聞くことなのです。お詰めの「おはす」寧に言つてあるんですね。何を聞くかと云うと、「詰められを聞く」とです。で、「詰められ」を辭書で引くと、「意味」と云つてます。だから、「意味」を聞くんだと。南無阿弥陀佛といつて言葉は呪文ではない訳です。意味があるんですね。では、阿弥陀さんで言ってもね、どうかに居るんではなくて、意味を表わす言葉です。阿弥陀といつて言葉に意味があるんですね。で、阿弥陀の世界のことを見たときの経典で、こうやって記してあるんですね。お淨土・淨土と云います。淨土といつ世界がどこにある訳ではなくて、淨土といつお言葉で示される意味のある訳です。その意味を聞いて「こう」と云ふとですね。そういう風におしゃっておられる訳ですね。では意味を聞くこと、「信」が開かれると云われます。「聞信」とおしゃっています。今日のお勧め(正信偈)の中に出て来ますよね。お聞信如來弘誓願」という言葉があって、ひらく誓われた願いを聞くという風な意味なんですね。聞くといつもはね、どういうことか

でもう一歩進んで、「知る」と云ふと、言葉の意味を知る。親鸞聖人は「信知」とおしゃっています。一緒にどうぞ。「しなり」 知るってことですね。知つた心を何と言つかるかと云うと、「信じ」と言うんですね。信心といつことは必ず聞くといつことがなければ、信心とは信頼といつことですね。信とは信頼といつことです。で、信とは信頼といつことです。あっ間違いないなあと。私達にとって大切なお言葉だなあと。大事なことを教えてくればさうと。本当と云うことを教えてくれなあと。私達のつながりにおいて何が大切なか、そのことを教えているなあと。そういうことを表わしていくたっていう訳ですね。それで親鸞聖人は、お詰められを聞く、信知とおしゃるんですね。で、その「知る」と云うことをこうおしゃっておるんですね。「見知」とは、一緒にどうぞ。「かくち」 覚は何でしようかね?「覚える」は「他に?」 そう、「目覚める」ですね。目覚め知るといつこと。要は、目覚めるといつことですね。だからお釋迦さまのこと何と言つつかといふと、インドの言葉で「ブッダ」と言うでしょ?「ブッダ」って言います。これは実は一般的な言葉なんですよ。後にお釋迦さまのことを「ブッダ、ブッダ」と言つますが、元々はどうして





もある言葉だったんだですよ。どんなことを表しますかっていふと、今でも一般的に使われてゐるんですよ。例えば、私の先輩がインドに行つた時に朝早く起きたら、「ブッダー、ブッダー」と声がするって言うんですよ。なんだろう? と思つたら、牛を引いた少年が、「ブッダー、ブッダー」と言いながら、家々を歩いて回つてたって言つて何からで言つた? 「朝だよ、朝だよ」と意味なんですね。目覚めだから。皆さんもほら、寝ると朝になつたう必ず目が覚めるでしょ。覚めない人もいるかも知れないけどもど。(笑) 覚めない人はね、あの、高徳寺さんにお願ひしなくちゃならなくなっちゃうけど。(笑) 寝たら必ず覚める訳ですね。目覚め。朝だよお。インドで「ブッダ」とは目覚め、朝起きたるという意味なんですよ。それが「目覚めた人」という意味で、覚者となつたんですよ。ブッタ。で、中国の人達がインドのブッダとう言葉を漢字にあてた訳ですね。だから漢字に意味はありません。当て字ですね。で、ブッタといつてイングリッシュの言葉を漢字に当てて、仏陀。と。それで「ダ」が省略されて、ブツブツブツとなつて入つて來た。それで仏といつ言い方をして來たんですよ。ところがいつの間にか、亡くなつた方を仏様…みたいなことになつちゃって…。本当は目覚めそういう意味ですね。覚者、目覚め。じゃあ何に目覚めたんでしょ? つかね? ここにこうすればいいんですよ。目覚



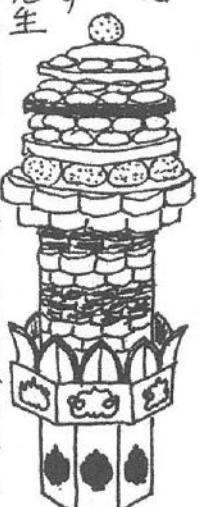
一本入れると何で読みますか? そう! “自覚”ですね。自分を知ることであります。もう少し広く言うと人間を知ることであります。人間を知つた! って言うんですね。自分の力で知つた訳じゃないんです。歴史に学んだんですね。人間が生きて来た歴史に学んだんですね。インドの国は大小沢山の国があつた。で、ショーチュウ、大き、国が小さ、國を滅ぼす。そして大きい国に対するけどもまた、その大きい国が争の中で滅んでいく。いわば戦争、争いの歴史ですね。そういう歴史の中で見て来た訳ですね。そしてなぜ人間はお互に人間どうしなのに、隣人どうしなのに、お互に他者であるけども、お互に自分として持つてゐる人間の間柄である存在なのに、なぜ苦しめ合つて、なぜ殺し合うんだろ? ということですね。何か大切なことが抜けてしまつると、どうしたことですか? 目を開いてきた歴史があつたんですよ。それを仏教用語で“諸仏”と言います。二緒にどうぞ。「じよぶつ」これまで生きて来た多くの人達のことです。ですから亡くなつた人達ですよ。亡くなつていかれた人達のことを諸仏として仰慕いた訳です。そこに何があるかと言つと…私の父は72歳で亡くなつて、兄は一昨年65歳で亡くなりました。す、職ガソ。そこに何があるかと言ふと、72年の歴史がある、兄の65年の歴史が

ある訳ですね。との歴史をどう生きて来たのかっていうことが、非常に私にとっては大きな教えになりました。生きてる時にはあんまりそんなことも感じませんでしたがけれども。亡くなつてみて初めて、父親はどんな人生を生きて来たんだろ？だとか、どんな時代を生きて来たのかとかね。兄はどうだったんだろうって、う風の、やっぱり亡くなった人の歴史に触れるんですけどね。そこには正しいこともあるし、間違もあるし……って、ううとでしょう。ね、それは人類の歴史ではないですかね。私達の先輩たちが生まれて、生きて、どういう世界を創って来たのか、他者の中で、皆の中で。日本という国を創った。ね、そういう世界を造るんですね。私達はね。だから、どんな時代を造って来たのかってことは、どういう人達がどういう人生を生きたのか。その人達がどううところに立つてつながりを持つて、どうう国を創って来たのか。ですから、この淨土仏教のキーワードは、"諸仏"ということ。歴史ですね。では、もう一つは、"国土"ですね。国土、世界。私達がつなぎを持つてるのは世界だった。どうう國を創つて、どういう場を創つて来たのか、生きる場を創つて来たのか……。そ、"諸仏"と"国土"、"うのが、この大乗仏典のキーワードなんですね。じ一緒にどうぞ。"じよぶつ、こうど" そうう私達に、私達がどううところで生きて来たのか、う、人間存在そのものに目覚めていく。歴史に学んで、歴史の中はどうう國が創られていて、そして私達も同じ様に、その中でどうう國を創ろうとしているのか。つまり、どうう

場を開こうとしているのか。私が生きていいくにはどうあれば良いのか？その中でどうつながりを持つて生きているのか。その時に我々は、本当に大切にしなきゃなんない、これが見えてないと、ううとあります。そこで見出されてくる訳です。だから自覺と言いました。私たちのものに目を開いていく。人間そのものに目を開いていく。そこには、先程言ったように人間の歴史と時代ですね。社会。そういうことが同時に課題となつて、そのことから教えられるそういう世界をいただく訳ですね。だから見てくる訳です。そりやあそつですよね。だって日覚める前は、どうしてますか、皆さん。日覚めの前は、日をつぶって寝てますよね。でも朝にはれば、必ずと日が開くこと。見えですよ、これはね。さくすると、日が覚めるとどうなるんですかね？日をつぶっている時は、見てられない。"不見"ね。うなつていがい。でも日が開くと、そこに見える世界がある。人間はひぐで、こんな時代を造つて来たのかと、う根本が見える訳です。人間はどううつながりを持って来たのかと、うね、そして争つて、傷つけ合つて来たのかっていう根本が見える。ううことをですね、私達に歴史を通してね、示して来たのが、お釋迦さまの存在です。お釋迦さまはそこに、"大無量寿經"という経典は、私たち人間が何を欠落して来たのかと、うと……本当と、うことを欠落して來たん

だと。本当のつもりとか、本当のあり方といつ
のが欠落して來たと。で、私達はどうなのがと、う
と、我々は本当でないことを本当として生きて來
た」ということですよね。で、何が本当からかう
すぐ、自らの中でも本当でないものを本当にして、
争って來たというか、傷つけ合って來たという
か。そりへ世界を創って來たんだと。こう
いう風にお示しくださっている訳ですよね。だ
から、私たちは本当に、このことを知らせたい訳
です。で、私たちもそうでした。本当が好き
きが好きですよ。本当といつのは本物といつこと
ことですよ。では、このお堂にいる人々の中で、私
は本物よりも二セものが好きって人……(笑)
おらあますかね? ぬ、本物がいいでしょ?
本当のあり方を生きている人の方がいいじ
やせですか? 政治家の本当のあり方で
なんですかね? 教育者の本当のあり方は
なんですかね? 企業経営者の本当のあ
り方はなんでしょうか? お医者さんの本
当のあり方と、あるいはお寺のお坊さんめ
本当のあり方といつのはどうでしそうかね?
"本当"といふことを感じなどね……つまり、
自分の存在がその人の中にないアと思いま
すよ。学校の先生にね、自分の子供
をお願いする時、信頼がなきゃまかせ

られませんでしょ? ……先生
生は子供のことをどんな風
に思ってるのか? と聞こえます
よ。その時に「あ、この先生
のやうは子供たちのことがあるな」と思つて信頼出来ます
よね。あ、このお医者さんの中には患者さんのがあるな?
と思つたら、信頼出来るでしょ? 起業家もそうですね。
お客様のね、消費者のね、気持ちがちゃんと経営者の方
にあればね、どういう会社経営なのかな? とびやかするじゃな
いですか。そりへうことが華れて、うからマニショーンが傾く訳で
すよ。つながりの中は利用者の存在が無い訳や! 公表
しませんって言ってたのに、国交省から公表しなさいって言われ
たう、ハイってすぐに公表する訳や。ぬ、消費者よりも
國の方が"中"にある訳ですよ。人間関係の中で何が信頼
出来るか。本当といつのことですよね。眞実といつのこと……
実はですね、この大無量寿經といつ教えと親鸞聖人は
「眞實の經」とおっしゃっておるんですよ。眞實、教えと。で、
ご自分のですぬ。主著がありますね。お書きになつたものが。
それは一般的には何を言つておるかと言つて、教行信証けぎゆうしんじょう
と言つてます。今日のお正信偈も、この教行信証の行の巻
の最後に書かれていろんです。はい、一緒に。「きよう、きようしん
じょう」これは実は俗称なんです。正式名前は「顯淨土



真実教行証文類」と言つてます。ご一緒にどうぞ。「けん
じようしんじょう」と言つても、「これでこの大無量
寿經は「教行信証」と呼んでいます。それでこの大無量

寿経ってお經は何かといつと、阿弥陀の世界といつもの物語にして書りてあるんです。その物語で説かれている阿弥陀の世界を「淨土」と言います。そしてこの物語で説かれている淨土といつて云う実は「真実」を表わしているんですよ。だから、淨土は真実であるといつことをあきらかにする、表わす……といふことですよね。もう少しきつと、もう少しきつと、真実といつことを淨土といつことを通して、顕らかにし、表わしているんですよ。だから言葉は何のためにあるかといつと、それは真実といつとを私に伝えていたい、そつとう願いのやでこのお經が、この教えが、親鸞聖人の教行信証が生まれて來てる訳ですね。だから、この真実の宗教といつのはですね、願いの宗教とかね、聞く聞く聞いて生きるといつことです。だから、真実を私當は真実、真実を聞くといつこと……真実を聞いて生きるといつことです。だから、真実を私達の中に置いて生きるから、真実を泉(中)とすると言つんですね。で、真実を宗とすると言つねう短くして「真宗」と言う。淨土・真宗。真実を淨土といつことを通して顕らかにしたものを持び聞いて、自分の生活の中に置いて、人生を生きる。その人たちのことば何と言つたかといふと、「門徒」と言つたんですね。檀家とは言ひうないんです。

皆さんは何でおしゃってますかね?・高徳寺の檀家?檀家ですか? 今日は高徳寺の門徒と言つてください。高徳寺は所属するご縁があるお寺なんですよ。本当は、「所属寺は高徳寺の真宗門徒です」という言い方をします。他の宗旨は「檀家」、これは「門徒」門徒は教えに触れて聞くといつこと。檀家は「ダーナ・パティ」と言って、お布施する人。亡くなつた人の菩提を弔つてもうつてお布施する人って意味ですね。だから、お他界では檀家さんは自分のお寺を菩提寺といつ訳です。ここは菩提寺とは言ひません。正式には何て言つと思ひますか? 真宗だけの用語、檀家に対して門徒、「菩提寺」に対して「手次寺」と言ひます。丁寧に言つと「お手次寺」に對して「手次寺」と言ひます。お手次寺に對して「お手次寺」と言ひます。一緒にどうぞ。「お手次寺」……これも消えてるよ。消えてくるんですよ、真宗の文化が。文化が消えてるってことは、私達のゆ、生活の中に無くなつて来てるってことです。無くなつて来てるから消えていく訳や。無くなつて来てるってことは、もう南無阿弥陀佛もなにも、わからなくなつて、それで生きるって人達がいなくなつていることだから、真宗門徒はいなくなつているんだね。いなくなつて檀家になつちゃうてる訳だ。・といつ課題がある訳です。手次です。次ぐ。これから次ぐ。広辞苑に書いてありますよ、ちゃんと。「手次寺」と。真宗だけの用語です。ここに次ぐか。本山に次ぐ。ここ(の寺)を通して京都の東本願寺に次ぐ。東本願寺の元は向か、歴史の元は何かといつ

うと、親鸞聖人のお墓から始まるから、親鸞聖人に次ぐ。親鸞聖人と言つても人物だったりカリスマだからそれはありえない。親鸞聖人が出遇つた南無阿弥陀佛に次ぐ。で、南無阿弥陀佛とは何かって言うと、南無阿弥陀佛は本当ということだから、我々を本当といふことにつないで行くための寺。だから手次寺って言つんですね。本当ということを聞きながら、自分はどうか…っていうことを確かめながら、生きる存在を「真宗門徒」と言う訳だね。まあ、物語ですね。^{正信} 僧侶の中、「法藏菩薩因位時 在世自在王仏所」とありますように、物語です。お経の中に書いてある物語を伝えなんですよ。物語ってとても大事ですよね。人は大切なことを伝える時には、物語で伝えたいと考えます。アイヌの人たちにも物語がありますね。自分たちのね。文字は無いから言葉で伝えていくんだね。口伝ですね。だけど文字があれば口で伝えたことが変形しない。変わらない。つまり、文字を見ながら修正されていくから。言葉と文字っても大事なことだなあと田中います。お釋迦さまの教えも言葉だけだったけど、それを文字にして残して伝承されて来た。物語があるんですよ。物語が言おうとしているところには、荒唐無稽だけれども、変わることも書いてあるけれども信じられないことも書いてあるけども…でもそれはあ



くまでも物語です。神話的表現あります。奇跡みたいなことが書いてある訳ですよ。^{西方十方億土にこんな素晴らしい世界があるって書いてあるから。}それを読んだ人たちはね、あーどんな世界があるのか…死んだら行けるのかっていう話になろ訳ですね。そろばう風で受けとめて来てなんですよ。まさに神話的表現ですね。だけども本当はね、神話的表現なんだけども、そこには非神話化の物語、教えがあるんですよ。なんでもね。物語には「教え」がある訳です。自分たちの民族や自分たちが使っているものを物語にするんだから。だから、アイヌの人たちの大切にしたものは物語で伝えないと。世界中にある訳ですよ。物語は。イソップ物語もそうだけど。教典も物語。でも物語を物語として読んだら、お伽噺になっちゃって、單なるメルヘンになっちゃうから、だからそこにはやはり意味がある訳ですよ。行間に意味がある。つまり隠れてるんですよ。物語の中に。それを比喩的表現だからメルヘンですけれども、それを暗喩と言います。ゆる方法ですね。人間の知恵です。もの」と伝えている。だから北欧のフィンランド、たまたかスヌーデンだつたかな、そこのお父さんたちは、子供たちに物語を語って子供を育てていくんだそうです。童話を語

るんでしょうね。現代の日本のお父さんは何を語るのでしょうか？物語が無いのをもしませんね。しかししたうね。日本にも培つて来た物語があります。例えば……「花咲かじさん」とか「いだりじさん」とか。「舌切り雀」とあるでしょ？あれは本当にあった話でしようかね？疑人化してゐる訳でしょ。本当「じゃね」ですかね。「花咲かじさん」だから花が咲くんですよね。何を撒いたら花が咲くんですか？灰ですかね。灰を撒いて花が咲きますか？それを神話って言うんですよ。だけど今には意味があるでしょ？伝えたことが…意味があるんですよ。それは非神話化ですね。意味がある訳です。どうゆうに、南無阿弥陀佛の言葉にもやはり意味がある訳です。物語を通して伝えられて来ました。例えばこうことですよね。「西方淨土」と言います。じ繕にどうぞ。
「さあまつじまうど」淨土は西にあるぞ訳ですよ。その通りに受けとったとしたら…西はあちらだとうですが、ずっと行つたうど…や？・山梨県？・山梨県を越えたらどこ行くや？まあその先はよく分からんけれど、野を越え、山越え、谷越えて、はるばる行って、あく海だったって話ですよね。さうで西に行くならば、海を渡つて谷越えて川越えて、ずっと行くとどうなるんですか？そう！元へ戻るんですよ。じゃあこれは淨土か？話になるね。淨土じゃないですかね。じゃあ宇宙の彼方へ。うんどうでしようか。これもねエ・宇宙には果てがあるとかないとかが分かるような時代になつてきるから…。

では何を表わしているんでしょうね、この西方淨土で。大無量寿經と阿弥陀經の中には、西方十万億土は遠いって書いてある。西の彼方って書いてあるんですね。ところが、觀無量壽經っていう同じ流れの(淨土三部經の一つ)お經には、「去比不遠」って書いてあるんですよ。三三緒にどうぞ。「こしふおん」これは、「ここを去ること遠からず」…西方十万億土で行きながら、イヤイヤイヤ、遠くなよ！って言つてゐる訳です。近いと言つてゐる訳です。何を言いたいかでいうとね、私達は近すぎてめからせいで言つてゐること。淨土という言葉で表わされている。その真実を淨土という言葉で表わしている。その真実といふこと、本当とこうことが、実は近すぎてめからせ…。私達の身体で近くで見えない所でどこですかね？一番近くで見えない所…。そう、鼻がんですよ。鼻、見えます？・見えません。自分でどんなに努力したって、自分の力では見えなから十万億土。見えないところが十萬億土。自分の力では…といふことなんですね。あるんだけど、本当とこうことは皆にあるんだけどそれが見えないって訳ですよ。見えないってことはどう？うことかと言つと、見失つてゐること。見失つてゐる私達に、見える世界を開こうと言つてあるとかもうとかが分かるような時代になつてきてるから…。

「ならば鏡の」と、善導という方の言葉です。「善導」獨明佛正意と赤本にあります。「経教は鏡のかがみのじ」とおしゃってます。一緒に書くことがあります。「きょうは出来立て話。鏡が無ければ自分の姿は見えない。自分、他者も見えない。」ながら見れない。みんな時代を造っているから、実は見えてない。そういうことを示してください。だから私とは何かってことがお経の中に書いてある訳です。人間とは何かってことが書いてある訳です。どんなつながりを持っているのかってことが書いてあるんですよ。で、どう風に書いてあるかって、うと、「私は何か」、「私は自身である」ということ。変な言い方ですが、「私は自身である」と。私自身だと言えるんですね。「私自身」一緒にどうぞ。「やだしじ」と、この私の「自身」が見えてない。自分に一番近い自分が見えてならないってことです。自身が見えてないって…。あ、ひとつ言うの忘れてました。西のことね。西にはどういう意味があるかってことをお話ししますね。西っていうのは、何を表わしてあるかって言つて、西という言葉の文字の語源ですが…鳥がいて、その鳥が巣に帰りました…というのが語源です。鳥にとって巣とは何ですか？・自分の家ですね。だから私達は生きてある存在といつのは、皆、巣を持っていますよ。家を持っている訳だ。で、必ず鳥



るってことですかね。そこから出て、そこへ帰るってことですね。それを何と言つかうか、いと、「帰巣本能」という。一緒にはどうぞ。「そもそもほんのう」と、今日皆さんのはね、家から出て来てさあ、又家に帰るんですよ。今日帰るとこ無い人おられますかね？戻るところがなこと大変ね。帰るところが無いってことは、住所不定？生きる居場所が無いってことですかね。どうですかね？・帰るお家が居場所にならなくて問題もありますけどね。(笑) 帰巣本能。帰るとこうですよ。この帰るとこう、私がそこから出て、そこへ帰るとこつ世界。それき仏教では、唯識の言葉で「依止」と言います。一緒にどうぞ。「えい」としません、依る。つまり木みだらなもの。私達の立つところ。立つところはどこですか？・立つところはどこがわかるかってことやね。そうするとそれは「依り处」あるいは私の根元、足元。あるいは根源。あるいは根底ですかね。私達の生きてあるところのね、根本はどこなんだと。根源はどこなんだ。根元はどこなんだそ話やね。ここに立って政治してるのかと。ここに立ってお医者さんしてるのかと。ここに立って毒で夫なんだと。根本ですよね。ここに立つて生きるのかと。そこにはなぜ来て来ますよね。根本ですかね。どこに立つて生きるのか…。そういうことがきてるのか…。お言葉から問い合わせられる。私達の根元とどう方向性、それは何かと言つたう足元。

それは何かと言ふと自身だと。ます、身」という
ことですかね。“身”。皆、身を持つてゐるんですよ。身
といふのはこの身体です。身体ですね。不思議ですね。こ
の身体ってのは。だって男性女性の違ひはあ
ります。あの目の機能、鼻の機能、口の機能、
喉の機能、身体の機能、そういうのは皆一緒ですかね。
不思議ですね。生まれた時代も違しね、
生まれた地域も文化も違うけれども、この身体
を持っている機能は皆一緒。ただね、風土によ
つてね、熱い所でずっと暮らしている人は肌が
黒くなる。寒い所で暮らしてると肌が白くな
る。我々みんな黄色い人たちもいるけれども、ま
た風土によって違うんです。でも身体の機能は
皆一緒です。不思議なことです。だから皆、
同じいのうなわけですよ。この身體を持って生きてゐ
る私たちは、同じいのちを持つて存在なんですね。
そしてこの身體は、お父さんのおちとお母さんのお
ちをいただいて、私という存在として生まれて
くるのです。だから私の意味は父親と母親の
影響を受けている訳ですね。だから皆さ
んの顔や輪郭は小さい頃から「目元はお母
さん似ね」とか「口元はお父さんに似てる」なんて
言わせてたらじやないですかね。この前そうこう
話したう……「私達夫婦はあまり背は高くせ

いませんけれども、この手は高いくておしゃるから聞い
たうね、「実は妻の父親は背が高いくて言つて
影響を受けてるんですね。いつも」と思つたりね。
そして、この私は私は私になってきた歴史があるんですね。
私がいて、お父さん、お母さん、おじ、お姉さんとおばあちゃん、
さかのぼっていくと、めりしれな、無量のいのちです。私
から10代前は102人、30代からすると10億、20億って数
の人たちが出てくる!! 私が生まれてくるまでにですね、も
のすごい数の人たちの人生があるんですね。そして、その人
たちで作そる世界がある訳ですよ。諸仏の世界が
ある訳やね。で、この人がいなかたら、私は……いよいよ
存在……しな。となるとですね。そうするとね、私が私に
せた歴史がある。この身がね、大変なことですよ皆さん。だ
から皆さんのが100年前も200年前も1000年前も同じように生
まれて生きてたかっていきうと、そういう人は誰もいな、訳で
すよ。じゃ、これから100年後、200年後、1000年後、人
類がこの地球上に存在する限りにおりですよ。私とどう
存在がもう一度生まれて生きるかっていうと、それもない。
といふことは、この時代に私として生まれたと、うことはです。
誰にも代わることのできない、私という存在のね、渠さがあ
るぐです。そして一人一人は決して軽くない、重みがあるぐです
よねえ。そしてそれは誰にも代わることの出来ない人生
ですから、軽く扱われたり、見下されたり、虐げられたりす
ることは、決してあってはならない存在ですね。一人一人が尊
さと重さと深さを持ってる訳です。この身体のだからお
互いが本当に尊重されていかなければいけない訳ですね。

そういう身体なんですね、老婆は肉体ません。単なる肉体じゃないですね。さっき言ったように歴史的存在なんだね。私は3人兄弟なんですよ。父はねえ大正8年生まれですね……もうそくなって3年になりますけども……癌で亡くなりました。性格は穏やかな人でしたね。で、兄もねえ一年年に肺臓癌で亡くなつたんです。兄が亡くなつたのはもうすぐこのままになつたね。実家の兄貴だったもんですかね。父親代わりのところもありましたからね。年が離れてたんですね。残念でならないんですけど、その兄も父に似て性格が陰やかですね……。身体の方も似ちやうですね……。で、兄貴がもう一人いるんです。次男。次男はね、母に似てるんですよ。母親はね、寺の一人娘ですね、大事にされ過ぎたんですね。だからちよつとね、まあ言ひ方があが悪いけど、我が儘なんですね。で、ちよつと面白くないことがあるとね、アイシでする。だからトさう時は母親の顔色見てねえ、機嫌見て起きましたから。父が養育子なんですね、隠されています。母は大食漢。よく食べる人やわ。次男の兄貴もよく食べるんですよ。で、私はね、昔から「お前はミックスだ」と言つれました。父と母のミックスだそ。とうすると私は糖尿病も来て、癌も来るんかいな!



て思つてね。来うともしれないし来ないかもしれない。やからしいですね。で、性格はって言つて、自分で自分ではよ、父親似じゃないかと田つてるんです。自分で穏やかな方だと……ところがね、皆さんは誤魔化せるけど、誤魔化せない人がいるんですよ。誰わかりますか? とう・奥さんと子供たちはね、誤魔化せないですね。そうすると何があるとね、言つてますよ。私が一番嫌いなこと。何を言うかというとね、「九州のお母さんとへり」と言つてます。(大笑)もうそれを言つれると、腰が碎けます。寝でも起きとそつなんだね。体质として引き継いでるんでありますよ。皆そうですね。そして、生きて来た歴史まで背負つているから……家の……歴史を……老婆は、自分のとこの培つた歴史が正しいと信じてると、大変でしょ? 大びなま、自分の家の歴史は正しいと、お母さんのやつてくれたことは全て正しいんだとかね、お父さんのあり方が正しいんだとむづてぬ、恋人でも妻でもいてさ、自分のところが正しいんだから、こうしてとかってなる訳ですよ。人間。本当は相手も歴史は違う相手の存在や相手の生きて来た歴史が私の中でありますから、それが違いますから、お互に理解するには培つたものが違いますから、お互いに歴史をね、どうして来てかそこらの相手の存在や相手の生きて来た歴史が私の中にあって、相手の中に私の存在があるってことは、お互いがお互に歴史をね、どうして来てかそこらの中で折り合ひをつけるじゃないですね。だけど、相手の存在よりも自分をへら……。自分だけとなると自分が正しいとなそしきつてしまつてしまつだから

人間はね、それをおしけちゃう。先日さんいが
ですかね？おしけられたときに何と言つたとい
うとお、「モラハラ」と言います。わかります？モ
ラハラ。わからなくて、「モラルハラスメント」と言
うんですよ。夫が妻に自分のね、やり方、あり方を
強制する。妻が自分の培ったものを強制する
とかね。で、言うこと聞かないと、腹が立ってDVに
なったり、暴力になるんですよ。自分の氣持方に
合わせると人間イライラするから。すると暴力
を生むんですよ。会社の人がね、働いてる人たち
のことがね、経営者の中になじどうなるかってい
うと、女性職員がいて、結婚されて勤めてらし
やるけど、妊娠しましたと…妊娠すると、仕事を
に来れなくなる、もうすると、会社にとっちは都
合が悪い。するとどうなるかっていうと、辞めるよ
うにね、して…。そういうのがな知ですか？ハラ
スマートですね。でも「マタハラ」って言つんです。マ
タニティハラスマント」「ハラハラ」から
ハラスマートだけでも30いくつあるそうです。自分
の方が正しくて相手の存在を認めない訳よ。そ
れは暴力にねる…ということあります。同じ働くても立場が違っても母も一人の人間だ
から、お互にがお互い同じのを生きてる人間
じゃねえですか。そうすると、お互いが立場や考え方
が違っても、尊重して、そしてお互いの人生の深

みで、私達が思ひたいたさないといけないですね。けれどもう
ならぬいね。そーはうせ、何があるかといふと、自意識がある。
自意識が…。私とう自意識があるんですよ。私って
私、たう私なんです。で、私って言う時には、私は砂漠の中
にボツンとなる訳じゃなく、私って言う時には必ず他者が
あらねなんです。最初の話じゃなげど。他者があつて初め
て私なんや。そうすると、私って言う時は必ずそんに他者
が入つている訳です。なので、私って言った時には「私の世界」
となるべです。必ず。それで仏教では、私のことを「我」って
言つてます。そして、私の世界のことを「我所」と言います。
私って言う時にはもう同時に私の世界。私とう存在は、
仏教では「我」「我所」と言います。二緒はどうぞ。「が」「がよ」
私と田つたら、私のつなぎは私の世界せんや。そうすると、ど
うなるかと言つと、私の世界は私の培つたものや、私の考え方
にして行きたい、と思つんですよ。要是どう、うことかと言つ
と、私は私の世界にしていきたい訳だ。私を。私の世界を。だ
から、ダニナさんは、ダニナさんの色に、家庭をしていきたい。で、奥
さんは奥さんなりに、この家庭は私の色にしていきたい…って
思つたら、どうなるんじょうか…。葛藤があるんですよ。
でもその葛藤があまのが私達なんや。実はね。葛藤がある
時に相手に對してどんな思いを持つて…その時に、あー結局
自分の思い通りにしようとしているだけじゃないかって言つ
世界がそこにある。葛藤があつた時に自分を見つめ直す
ご縁ですね。だから、ぶつかつた時に初めて問題がそこに出で
来て、課題が見えて来て、人間の課題が出てくる訳です。



悲しいかな、何か起らぬといふ人間存在といつのは問題が見えて来ぬ」という事柄がある訳ですね。だから、事件がね、人間という存在をそこに明らかにして行く扉を開く。事件が。そういう意味では事件が本当に「う」として触れる扉を開く……といふことなんでしょうな。「我」「我所」……「我」は「われ」、「我所」は「所有」……「我」がものだから、私の好きなようにして「きたい」訳だから、所有ですよね。どうすると、我で、我がものといふんですね。私は全てを私の世界にしていきたい。だから今年の夏なんかはずっときたけど、結局、私たちも安倍さんのモラハラを受けたような感じですね……そういう感じがものすごくしますよね。自分の培った歴史がありますからね。あの人にも、正しくと想つてうしやる訳だから……何を正しくとするのって、うる話ですよ。自分の国の人間を正しくするの。アメリカの人はアメリカの文化を大事にしますよ。ロシアも。中国も。韓国も。それぞれの国がね、自分たちの国の人間を大事にして、それを基準にしてもののと見て、違う人たちと、他者を接した時によどむなるか? などと、あくまでも基準は自分の文化があるじゃないですか。そうして、他者を受け入れないよね、これは。自分たちの文化に都合が良ければ受け入れるけれども。

でも本当はね、この身體ってのは「選ばず・嫌わず・見捨てず」ですよ。皆、同じのねだから。同じのうちの存在だからね。皆、尊いんや。アメリカの人だって、韓国人だって考え方が違ても、田舎が違てもね、そこには家庭を持った家族を持ったね、一人一人が生きているだけの話ですよ。それきぬ、力でもって制していくことはね、お互に間違ってるってことですよ。人間に間違ってる。人間が人間に間違っている。そう言っていいかもしない。ところどころは、自分の意識がね、身を傷つける訳ですよ。人間どうし争うってことは、私達の意識が傷つけ合っていくですよ。この「我」「我所」のものが……そのじを「煩惱」と言います。煩惱は私達には見えないんです。だから、お正信偈の中に、煩惱障眼「雖不見」……不見、見えぬ。煩惱を何と言つか? うんと、分別心とも言います。どうぞ、「ふくべつしん」分け別する。『ふくべつしん』と言ひながら、分別があるから、『ふくべつしん』と言ひながら、『ふくべつしん』です。で、どう分け、どう別するか? 言うと、善と悪に分けます。善いものは受け入れて自分にとって都合の悪いものは受け入れない。だから、お正信偈の中には、ヨ「一切善惡」凡夫人口って言葉がある。(卷本12.2) 一切つづるのは ALL です。すべきの人。全ての存在は、善いと悪いに分けた価値観でもって生きている。その存在のことを「凡夫人」と言つ訳です。そういう私達が如來の広く誓われた願い「南無阿弥陀佛」のじを開いて、そこに真実ってことに触れさせていただく。本当のことに触れるならば、何がわかるか、言つと、善悪で生きている私の姿が、そこに見えてくる

とおしゃる。私達は煩惱から抜けられない。煩惱は消えないんですよ。重力と一緒に。だから、いつも縁があれば自分の意識が人を傷つけている。虐待っていう問題。はじめという問題。阻害すること。あるいはテロとか戦争という形では、殺し合ってこと。どこに眼差しを置いて政治をするのか、どこに眼差しを置いて日本や経済があるのかということでしょう。私達の生き方も、どこに眼差しを置いて他者と触れ合っていくのか、といふことが、どこに根本の問題として突きつけられてくる訳です。そつう善惡のね、心で作った世界のことをですね……えーとね、「国土」があるんですよ。赤本の千ページです。「國土人天之善惡」一緒に。「こくどにんてんしぜんまく」善惡を元にして国を創る訳や。それは傷つけ合って世界。相手の存在を認めないと世界。それは悲しいですね。悲しいんですね。悲しいからね……赤本の30ページを見てください。の行目に「憐愍善惡凡夫人」……憐愍心、悲しみですよ。悲しいからね……赤本の30ページを見えてください。それは傷つけ合って世界。相手の存在を認めないと世界。それは悲しいですね。悲しいんですね。悲しいからね……赤本の30ページを見てください。の行目に「憐愍善惡凡夫人」……憐愍心、悲しみですよ……悲しみ。この悲しみ：人間は悲しい存在だと云ふんですね。誰かが言つてゐる訳ではないであります。人間が人間に背いているから悲しいんですよ。それは私達の中のことですね。外にあるのではなく中であります。私が私のことを悲しんでゐる。そつう世界が我々の中に流れているんだっていう訳です。私は確かに自分のことしか考へない存在かもしれない。だけどもそれだけ生きてる訳じやない。やっぱり手を取り合って、気持ちが通じ合えば嬉しい。そういうじがある筈です。

あるんですね。そつう世界に私達は背いてね、自分の心だけ生きているっていう訳です。だからね、この悲しみから出発する訳。だからさっき言った『煩惱障眼』雖不見^{ゆふ}てありますよね。29ページです。煩惱によつて私の心で私が見えない。それは……となりの行に「大悲」つて書いてあります。一緒に読みましょう。大悲無倦常照我^{だいひむけんじょうが}煩惱によつて見えないことは悲しいことだつていうことですよ。悲しみのことで自分で自分が自分を傷つけている。人が人間を傷つけてくるんだよつてことに、本当に目を開いて欲しい。頼いが、私達の奥底から生まれてくる。人間の奥底から生まれてくる。私の意識じやない。心じやない。身の中から。それを「悲願」もう一つ言うならば「大悲」という。その大悲の心を伝えていきたい。皆、人はあるがままのそれぞれの尊い存在だよつてことを「如」と言います。「如」と言つてください。皆、尊いんだよつてことを「如」と言います。それぞれが尊さと重さと深さを持った存在ですよと云ふことですよ。同じして言う訳ですね。皆尊い存在だよつてことですよね。「ことし」って言う訳ですね。皆尊い存在だよつてことですよ。言つことに氣づかずに、自分中に生きているから、悲しい。そしてそれが願いとなつて我々に来る、来てくる。形で来てる。言葉で来てる。お経の言葉で来てる。南無阿弥陀佛の言葉で来てるから。それを仏教で言うと、「タタガタ」と言つて、それを「如來」と言つてください。

聞信如來弘誓願^{きんしんごうせいがん}(赤本12ページ)
如來阿彌陀^{にじやつ}て言つてはぬ、如來、
て語らずじよ。名詞じやない。動詞ぢや



願いが来てる。願いを形にして表わしていくべきでいる。
そういう風に言っていいんでしようかね。阿弥陀さん、
て言うのはですね、そういう意味では非しめを表わ
してくる世界です。どこにいる存在じゃないです。私達
の深いところで私達自身を悲しんでいる。私達自身
です。私達の外にあって、神さまとか仏さまとかを立
るならば、それはキリスト教のことと変わらない。人間の
上に君臨する神である。でもこの淨土教の親鸞聖
人の教えは、人間の上に君臨する仏さんじゃなくて、悲
しみなんですね。人間が他者の中に生きながら、他
者を人間として見うれじよつは私達がいるんです。
だからどこまでも人間は縁によって、残酷になれるそ
ういうことでしよう。まあ、残酷にむかうから戦争も起こ
るし、原爆も落とすし……。そういうことじゃなくて、
うかね。私達の時代は、どこに向かうかいるのでしょうか
かね。これまでの歴史に学んでいるのでしょうか。未来の
人たちの存在が眼にあらんでしょうか。人間の文化を
人間を見る基準にするんじゃないと、人は皆尊さを
持った存在だ、という所に視座を置きせがら、自分
といふことは、いたいどこに立っているかをいつも問いか
けられてくる。そういう教えとして、仏教が実は生ま
れて生きているということですね。そういう教えを親
鸞さんは、自分の依り処としてね、生きられた方で
あったと言ふことです。皆さんもですね、この時代の中
であつひとつ、そういうことをですね、胸に持て生きて
欲しいというが、親鸞聖人の私達に対する願い

あります。今日は年三度の法要です……本当は
毎月毎月親鸞聖人の命日の時に皆より集めてお勤
めをして、こういう話をいただいていたんですね。こちらの高
徳寺様でも毎月、そういう集いがあるんですね。住職
からもご案内があると申しますので、そういう場に足を
運んでいただいと、こう世界に耳を傾けていくといふシ
トが、私達にとって大切なことです。そういうことを伝え
て行く“場”としてのお寺ですね。そのように受けとめて
いただけだライイナアと申します。近くの方のこと
を縁として、私達が親鸞聖人のお心に触れ、仏教
の精神に触れていくことには、現代人にとて本当に
大切なことを回復していくね、そういう大事な“場”で
あると、うふことですね。だから昔さんにとてこの場所が
“居場所”になつてもうそれはイイナアといくことを強く
思ふことになります。久しぶりに来て、ちょっと緊張
しましてですね、硬いになつてしましましたが、お許しいただ
きたいと田代うふことござります。

(おわり)

報恩講法話

海 法 龍 師

一〇一五年十月二十四日

(文責) 高徳寺住職 繹義祐

如來大悲の恩徳は
自身を粉にしても
報すへし
恩徳も骨肉を
知識の
師主として
恩徳も骨肉を
自身を粉にしても
報すへし
如來大悲の恩徳は

(恩徳讚)
おん
どく
さん

印度菩提樹の葉

あとがき



電車内で席に腰掛けて、念入りに化粧をする若いや女性を目にすることがあります。まるで車内はその女性の部屋かのように、周りを全く気にしていない……。目の前にいる私をはじめ、車内の客たちの存在は、その女性の中には無いのだろうか……。

今回十年ぶりに海法龍先生にご金講を願い、たっぷり一時間半、お話を聞いて頂きました。

「自分の中に他者の存在がないと、関係性が切れていく……」

お話を聞かせて頂いて、先の化粧をする女性が頭に浮かんだ訳であるが、まるで、自分はそんなことはしないという感じがあるけれど自分(あなた)の中に他者の存在は本当にありますかね?・と阿弥陀さんから問われているようで、普段はおとなしくして、いつもモヤモヤがちよとざわざわしてきました……。私にとって本当って何なのだろう?・ますます仏法聴法せねばと思ったことです。今回も門徒総代の藤井清三様のご厚意によりまして、別冊を発行することが出来ましたことと、この場を借りて、ご報告させていただきます。

釋義祐

発行日 2016. 10. 22

〒164-0002

東京都中野区

上高田1-2-9

発行 真寂谷派 高徳寺

☎ 03-3368-6947

FAX 03-3362-8019

ホームページ <http://www.kautokuji.or.jp>